

# 平成23年度 福岡市地下水汚染対策委員会議事録

平成23年11月25日(金) 15:30～  
市役所15階第3会議室

## ○議事

### 1 地下水概況調査で判明した汚染の概況及び原因調査結果について

#### (1) 早良区小田部 【硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・ この地区一帯がかつて小田部大根の大きな産地を形成していたことから、長年にわたる施肥の影響があったと考えられる。
- ・ 別の場所だが、葱のハウス栽培が盛んな地域においても同様に環境基準の超過が生じていた。
- ・ アンモニア濃度が低いことから、最近ではなく過去の施肥の影響であると考えられる。
- ・ 図1-3にあるとおり、この地区は約7万年前の阿蘇山噴火による火山砕屑物によって形成されており、周辺地区と比較して水はけが良いために大根の生産も盛んであると考えられる。
- ・ 環境基準以下であった周辺にも硝酸性及び亜硝酸性窒素の値が高い井戸があることから、田畑への施肥の影響による汚染が主な原因であると考えられる。

#### (2) 早良区南庄 【ふっ素及びほう素】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・ 図2-5において、「202」の $\text{NO}_3^-$ の値が他の値と比較して高いことから、南庄の他の地点と比べて数値は高いが基準超過などではないなどのコメントを入れてもらいたい。
- ・ 地理的には海岸線から離れているようだが、表2における基準超過井戸のECの値を見ると200前後を示しており、また、海水のECの値が4千台であることから約5%の海水が混入している可能性がある。
- ・ 図2-5において、基準超過井戸の $\text{Na}^+$ 及び $\text{Cl}^-$ の濃度が高いことも海水の影響を示唆している。
- ・ 室見川及び金屑川の汽水域が近くにあることから、地下水も同様に海水に侵入されている可能性があること、また、1万年前は海であったことから、地層に残存して濃度が高くなった海水の影響を受けている可能性もあることも考えられる。
- ・ 井戸の深さの情報は無いが、仮に中洲層から採水しているのであれば海水の影響を受けていると考えられる。
- ・ 結論としては、海水の影響が原因であると考えられる。

### 2 その他 福岡市地下水汚染対策委員会等において検討された物質一覧

##### ◆委員の主な意見

- ・ 参考資料の香椎地区の測定結果をみるとC地点の付近に汚染源があるような気もするが、当時は汚染源の特定には至らず、今後も監視を継続するという結論に至った。
- ・ 香椎地区における1, 2-ジクロロエチレンの濃度が近年は上昇しているようだが、これはトリクロロエチレンやテトラクロロエチレンの分解生成物であると考えられる。
- ・ これら有機塩素化合物は徐々にしか減少しないため、今後も監視を継続していく必要がある。
- ・ 今宿地区においても同様に検出されているが、今後も汚染原因者による浄化作業を継続してもらうとともに、行政としては監視を継続する必要がある。